

令和2年度中間市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和3年3月9日（火）14時
- 2 場 所 中間市中央公民館2階第1研修室
- 3 出席者 市長 福田浩
教育長 片平慎一
教育委員 河本直子、衛藤修身、佐野正靖、太田かおり
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 教育部長 佐伯道雄
総務部長 田中英敏
市長公室長 田代謙介
学校教育課長 松永嘉伸
学校指導課長 小野篤志
教育施設課長 北原鉄也
生涯学習課長 米満孝智
学校指導課課長補佐 高橋啓之
生涯学習課課長補佐 友廣慎也
学校指導課指導係長 元嶋崇彰
学校教育課教育総務係長 野中康伸
- 6 傍聴人 なし
- 7 議事日程 別紙のとおり
- 8 議事次第 別紙のとおり

中間市総合教育会議事日程

令和3年3月9日（火）14時00分

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 議事
 - (1) 中間市のICT教育について
 - (2) 学校における新型コロナウイルス感染症対策について
- 5 閉会

[開会時刻：14時00分]

佐伯教育部長 | みなさんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和2年度中間市総合教育会議を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。それでは会議次第にそって会議を進めさせていただきます。初めに福田市長よりご挨拶をお願いいたします。

福田市長 | 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。令和2年度中間市総合教育会議にあたり、一言ご挨拶申し上げます。教育委員の皆様方におかれましては、日頃から中間市の教育の充実、発展に大変ご尽力をいただいておりますことを深く感謝申し上げます。今年度はコロナに明け、今日までコロナ対策が続いておりますが、この間中間市の子供達には学校が休みとなったり、友達との身体的距離を保ったり、賑やかなクラスの雰囲気が一気に変化した年でありました。コロナ禍にある中、教育委員会におきましては、子供達の学びを止めることなく、毎日の感染予防対策等にご尽力いただき大変感謝をしているところです。この緊急事態を重くみました文部科学省からは、小中学校の一斉休業、臨時休業措置の要請がありまして、教育委員会の皆様には非常に苦しい決断を迫られたことだと思っております。幸いにも本市の小中学校では児童生徒に1人も感染者が発生しておりません。本当に関係者の皆様のご尽力のおかげだと思っております。学校再開時には児童生徒や関係者の感染予防を第一に考えまして、入学式の出席者数などを制限したり、自主登校や分散登校を実施していただくなど、子供達の生活リズムや健康状態などに配慮しながら、みごとに学校の再開を実現していただきました。学校が再開してから、小学校におきましては新学習指導要領のもと、中間市におきましては昨年10月からロボットを使ったプログラミング教育を実施しております。この学習を始めるにあたりまして、民間企業から寄付を受けましたメカトロウィーゴというロボットを活用した授業で、子供達の夢や希望への創造を育ていただきました。また、ソフトバンク製のPepperを小学生がプログラミングいたしまして、JR中間駅で駅長Pepperというユニークな取り組みも実施いたしました。これらの教育に関するICTにつきましては、令和2年度予算におきまして、小中学生全員にタブレット端末と各教室に大型モニターを整備する経費を計上し、市議会の承認を得まして、この3月に整備が完了いたします。4月の新学期からタブレット端末と大型モニターの活用によりまして、新しい授業形態になっていき、今後更に多彩な授業や学びが展開されることに大いに期待しております。

	<p>す。本日の議題は、「withコロナ」や「ICT教育」など今後の新しい学校教育の在り方を考える上で非常に重要な案件でございます。是非とも活発な議論を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶といたします。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
佐伯教育部長	<p>ありがとうございました。ここで教育委員の皆様にご自己紹介をお願いいたします。それでは片平教育長から順にお願いいたします。</p>
片平教育長	<p>教育長の片平でございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
河本教育委員	<p>教育委員の河本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
太田教育委員	<p>教育委員の太田と申します。よろしくお願いいたします。</p>
佐野教育委員	<p>教育委員の佐野と申します。よろしくお願いいたします。</p>
衛藤教育委員	<p>教育委員の衛藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
佐伯教育部長	<p>教育委員の皆様、ありがとうございました。これより議事に入らせていただきます。議事は中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により福田市長に進めていただくことになっております。それでは福田市長よろしく申し上げます。</p>
福田市長	<p>それでは、議事を進行させていただきます。まずは中間市のICT教育についてです。説明をお願いいたします。</p>
片平教育長	<p>ICT教育について担当課から説明をしていただきますが、ICT教育、プログラミング学習といいますが、往々にして学習に使います。教育なのです。私達が教育をどう進めていくかというところで、プログラミング教育というところで、その1つとしてICT教育について展開していく必要がございます。これについて詳しくは担当課である学校教育課の松永課長から説明をしていただきたいと思います。松永課長。</p>
松永学校教育課長	<p>中間市の小中学校につきましては、これまで小中学校それぞれパソコン教室の整備によってインターネット環境を活用したICT教育を進めてま</p>

いりましたが、昨年の国の補正予算によりまして、ネットワーク整備と1人1台タブレット端末の整備について、市に対する補助が決定したことをきっかけに、中間市の各学校の教職員の強い要望に応えまして、令和元年度3月の補正予算及び令和2年度の補正予算に全ての児童生徒及び教員合わせて3064台のタブレット端末が活用できるだけの予算を計上し、議会の承認をいただきました。これから全ての小中学校の教室でインターネットのクラウドサービス等を利用しながら、電子黒板で教材提示や一人一人の習熟度に応じた学習を行ったり、デジタル教科書を大型モニターに提示してそれを操作しながら、児童生徒の考えを討論するなど多彩な授業展開ができるようになります。教員につきましては、今後もタブレット端末の使い方を学んでいくために、日常の校内研修はもちろん、研修会や研究授業を通じた教員同士の交流を行っていきたくと考えております。今回は国の補助金とコロナ対策の地方創生臨時交付金によりまして、一度に全ての児童生徒に導入され、令和3年度4月から授業で活用できることとなりました。現在教育委員会として検討していることは、タブレット端末の使用上のルールをどのようにしていくのか、タブレット端末が壊れた場合の負担や代替え機の対応はどうするのか、転入や転出などで転校される児童生徒のタブレットをどのように運用していくのかということでございます。タブレットの対応年数が約5、6年とされていますことから、今後新しく更新する場合の財源をどのように確保していくのか、更新の方策と財源の確保、これらの対策を早急に検討していかなければならないと考えております。

次に具体的な研修計画と昨年から始まりましたロボットを活用したプログラミング教育の実践の部分につきましては、学校指導課から説明をお願いいたします。

小野学校指導
課長

タブレットの利活用の推進にあたっては、教員の研修が必須です。現在計画している研修は2つあります。1つは、全教員を対象として、iPadを活用した授業づくりの基礎を学ぶ「iPadを活用した授業づくり研修」です。これは、コロナ禍ということもあり各学校でオンラインという形になりますが、さっそく4月に実施します。もう1つは年間4回の計画で各学校の利活用推進教員を育てる「授業デザイナー研修」です。内容は、各学校の利活用推進計画作成・実践・報告と自分自身の授業実践報告になります。どちらの研修もAppleのテクノロジーを活用して教育現場の変革に努める教育リーダーである講師を招聘し、助言や、最新情報の提供も受けながら進めてまいります。

学校現場には既にICT機器を効果的に授業で活用できる教員も増えております。もちろん、従来の指導方法で教科の主眼を外さない指導力のある教員も豊富にいます。このような先生方の指導方法を組み合わせて、より有効な指導方法を模索し、広げていくことを目的に研修を進めてまいります。

次にロボットを活用したプログラミング教育ですが、今回の学習指導要領では、これまで各小学校の裁量に任されていたプログラミング教育が必修となりました。小学校におけるプログラミング教育とは、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるためのものです。各教科の中では、例えば、5年生の算数科では、コンピュータで多角形を作図する学習、6年生の理科でセンサーライトの仕組みを再現する学習が各小学校で実施されています。

今年度、中間市内の方から人型ロボット「メカトロウィーゴ」を寄贈していただきました。このメカトロウィーゴを活用したプログラミング教育を市内小学校の5年生を対象に実施し、プログラミングの基礎を学びました。

令和3年度につきましては、市内小学校6年生、今年度学習した児童達ですが、さらに応用した学習をしていきます。

中間市とソフトバンクとで協定が結ばれたことによって、人型ロボットPepperが貸与されました。さらに、その協定によってソフトバンクから中間市に2名の特命アドバイザーが派遣されました。その特命アドバイザーの支援のもと、人型ロボットPepperを活用したプログラミング教育を、令和3年度に5年生の総合的な学習の時間に学びます。

Pepperは音声による言語出力など高度なアクションを起こすとともに、感情を読み取るなどの人間に近い処理を行うことができるロボットです。Pepperの導入によって、児童がプログラミングする過程や結果が目に見える環境が整うので、児童の興味関心を高めるとともに、プログラミング教育に対する苦手意識を軽減して、論理的思考力を育むことにつながるのではないかと考えています。以上です。

福田市長

ただいま中間市のICT教育についてご説明がございました。皆様の中で今考えていらっしゃることや要望ですとか、今の説明に対する質問とかございましたら、挙手をしてください。太田教育委員さん。

太田教育委員

今福田市長からありましたように、コロナ対策では小中で1人も感染者が

出ていないとお聞きして、私もずっとニュースをチェックしておりましたが、本当に素晴らしいと思いました。学校教育現場の先生方、地域、中間市が一体となって対策された結果だと思いました。

今説明がありましたICT教育に関してございますが、1人1台のタブレット、大型モニター、無線LANの整備がほぼ終わってきているということで、これから4月から活用が始まるとお聞きしました。ハード面でも整備ができましたので、今度はそれをいかに授業の更なる充実のために活用していくかというソフト面での運用というところが鍵になってくるのではないかと思います。そういった意味で今研修も充実しているとお聞きしましたので非常に安心したところです。各種教材に関しましても、デジタル教材が非常に充実してきておりますので、これらを活用しながらより良い教育ができれば良いと思いました。

それから、プログラミング教育に関してですが、まさにグローバル時代を生きていくこれからの子供達が生きていく上で不可欠な能力の1つなのかと思いました。そういった意味で義務教育課程の中で、全ての子供達に素地を養う教育をされているということは、素晴らしいことだと思っております。

先日ニュースを見ておりましたら、中間市のロボットを使った教育が流れていたのを拝見したのですが、そういった意味で中間市の素晴らしい教育を、メディアを通じて外に発信していくということは素晴らしいことだと思いますし、大事なことだと思っております。今後もそういった機会があればぜひ発信していただければと思っております。

福田市長

貴重なご意見ありがとうございました。
他にありますか。衛藤教育委員さん。

衛藤教育委員

今中間市の子供達もちろんですが、学校が大きく変わろうとしています。何でこのように大きく変わるのかというと、日本全体が変わろうとしているからです。私個人としては、付いていけるのかなという不安があります。と申しますのは、私の家に小さい孫がおりますが、私はスマホを何ヶ月もかかってマスターしたのに、子供は数分でマスターできます。それだけICT情報機器を扱うことに慣れているし、それに長けているという気がします。このような教育が全ての学校で行われるというのは、今の子供達にとっては幸せなことですし、それをバックアップしていただいた中間市が将来のことを考えて応援していると思いますので、私は大変良いことだと思います。特に今小学校がどのようにタブレットを使うかという

ことについては、すでに学校でやられていますし、教育委員会の事務局としても今後どうやろうかと青写真を描いてありますから、そういう面では小学校は良く分かります。一方、中学校は、中学生の方がもっとプログラミングという意味でいったら興味、関心がある子供がいるのではないかと思います。その辺について事務局で計画等あるいは今現場で中学校向けに行っていることがあれば教えていただければ、小中一貫してICT教育が充実していくという理解になりますので、教えていただきたいと思えます。以上です。

福田市長 ありがとうございます。今の件について。小野課長。

小野学校指導課長 中学校については、技術科の教科の中でプログラミングをして台車を動かしたりする授業を実際に行っていますので、それを継続して行くということです。以上です。

福田市長 よろしいですか。河本教育委員さんどうぞ。

河本教育委員 コロナ対策に関しましては、本当に素晴らしいことをなさっているなと思います。保護者の年代の方がコロナにかかっているのをニュースで見ますので、子供達にうつらないか心配して見ておりますが、中間市で1人も出てないということは本当に素晴らしいと思っております。

それとICT教育に関してですが、私が少し心配していますのは、自分自身が機械は苦手なのですが、勉強は得意だけど機械をいじるのが苦手な子がいるのではないかと思います。逆に勉強は苦手だけど機械は得意な子や、勉強は得意だけど機械が苦手という子が落ちこぼれないように、分からない子に教えてくれるようなことを行っていただけると助かると思います。今の若い子は機械に慣れているからそのようなことはないのではないかと聞くのですが、もし落ちこぼれるような子がいましたら周りが教えていただけると助かると思います

それとタブレットについてです。私が持っていないので良く分かりませんが、携帯と同じ機能と聞いています。タブレットを使いながらゲームやインターネットで他の事に夢中になる子が出てきたら困ると思うのですが、その辺の対策はどのように考えていらっしゃるのか教えていただきたいと思えます。

福田市長 今2点ございました。落ちこぼれたらどうするのだということと、ネット

	やゲームに夢中になったらどうするのだということですが。小野課長。
小野学校指導課長	苦手な子については指導してまいりますし、教えていきますし、タブレットについては、現在、学校での活用を考えております。活用にあたっては、タブレットを配付する際に事前指導を行います。
福田市長	今のお答えで良いですか。
河本教育委員	授業中に他の事をする子がいないかということは、先生方に気を付けていただきたいと思います。
福田市長	よろしいでしょうか。元嶋係長。
元嶋学校指導課指導係長	補足ですが、苦手、得意に関しては「コレクティブインパクトを学校に」という考え方があります。それぞれの得意分野を持ち寄って課題を解決していくというのが、これから新しい社会を築いていく上で重要だと考えておりますので、教科の学習が得意な子、アウトプット、説明が得意だという子たちがチームを組んで、課題にあたるという授業をデザインするのも1つの手だてとして考えています。 それと、インターネットを授業中に見てしまうのではないかとということですが、Appleのクラスルームというアプリケーションを使えば、一括で教師から子供達がどの画面を開いているのか管理できますので、そこで1つ抑制がきくというのと、もちろん指導も併せてやっていくことで対応できると思います。
福田市長	よろしいですか。
河本教育委員	大変すばらしいことだと思います。安心いたしました。
福田市長	教育長。
片平教育長	タブレットを学校で使うとなると、今言われたように非常に苦手な子とかいます。そうすると苦手な子が「これ使えるのかな、どうかな」と、でも考えてみてください。これはあくまでもツール、道具です。学びを深めるためのツールです。苦手だったらタブレット辞めて、違う方法で学びを深めれば良いのです。これはあくまでも学びを深めるためのちょっと便利な

道具とを考えてもらって、気楽に使っていただければそれはそれで非常に価値があるのではないかなと思います。

河本教育委員 そういった意味では勉強が苦手だけど機械が得意という子にとっては良いですね。

片平教育長 これを使った学びを深める。学校教育の主目的は、どう学びを深めていくかということではないかなと思いますので、それを、学びを深める素材要因の1つになるのであれば良いと思います。

それから、子供達よりも先生方がこういったのを使いましょうと言ったら非常に苦手。でも、今回良かったのがソフトバンクと市長が提携していただいて、ソフトバンクの特命アドバイザーの方が2名おられます。その方が5年生のこの前の防災教育等授業の流れを組んでくださって、Pepperを使いながら授業を進めたらどうかと提案してくださいました。授業を進めるきっかけづくりがものすごいです。それをもとに授業をしますが、次は先生自身で授業展開ができるということに繋がって、そういった意味で初めて自分でPepperやメカトロウィーゴを「使いなさいよ。さあどうぞ」と言っても分からず使えない部分もありますが、特命アドバイザーの方がいらっしゃって初めて「こう使えば良いんだ」というところを先生方が実際に使いながら学べて、自分の授業に生かしていくという流れになっているので、非常に導入段階からものすごくありがたいと思っています。

福田市長 よろしいでしょうか。佐野教育委員さん。

佐野教育委員 ICT教育は非常に楽しみです。楽しみですし、私達が学んできた環境と大きく変わってきているというのを実感しているところでございます。その中でちょっと心配になるところが、先ほど説明にもありましたが、使用時間等がマニュアル化されていないようです。私達がインターネット見ても、いつのまにか時間が経ってしまいます。おもしろくなってどんどん時間が経っているということも多々あります。スマホ老眼になる場合もあります。子供達の目が悪くなったりしないかということとか、休み時間も続けてしてしまい、外で元気に遊んだり体力をつけたりすることをしなくなって、体力の低下につながったりしないかなというところを危惧しております。後はタブレットを使ってということで、小学校低学年の頃は紙媒体の辞書、辞典というのも併用していただいて、インターネットのタブ

レット上のものが全て本物であったり、正しいことが書いてあるとは限らないので、その真偽についても教育の中で教育の一環で全部信じこんではいけませんよということを当然教育していくわけですが、鵜呑みにしてはならないところと、辞書、辞典を見る楽しさというのも併用していただいて教育していただけたらという希望でございます。以上でございます。

福田市長

他にございませんでしょうか。衛藤教育委員。

衛藤教育委員

教師が使いこなせるかどうかという問題が一番のネックだろうと思います。実は私が学校を退職したのが平成14年です。その時にパソコンが入ってきました。パソコンで作業しても良いということでしたが、私は全く使えませんでした。使えない教師を全部集めて講習会があったのですが、まず出てくる言葉が日常生活とかけ離れていました。使用することについて経験がないから怖がってなかなか触れようとしませんでした。もし壊したらどうするかということがあって、その時の経験として私はパソコンを使えないまま、結局学校を退職しました。その後自分で勉強して今なんとかパソコンを使えるようになりましたが、今は学校の中でほとんどの教師がパソコンを使いこなせると思います。しかし、タブレットとなるとまた違うという部分があって、使える教師と使えない教師の格差が出てくるのではないかと思います。これをどう埋めるのかというのが学校の問題でもあり、教育委員会の問題でもあるだろうと思います。教師が使いこなせないと子供が変なことをしていても指導もできませんので、まずは使いこなすことができる教師を一方で育てていかなければいけないし、一方では子供のタブレット指導もしなければいけないということで、大変だと思います。時代の流れで教師が乗り越えていくしか方法がないだろうと思いますが、できるだけ使えこなせない教師に対して暖かいサポートや目を注ぐという学校の体制や、教育委員会の指導が必要になってくるのではないかと思います。

福田市長

ありがとうございました。

片平教育長

パソコンが入った時は、自分でパソコンを買って、好きだったというのもあって楽しく使っていました。今はほとんどの教師の方がスマホを持っていて、そのスマホとパソコン、それとタブレットとみたら、パソコンよりもスマホの方がタブレットに近いと思います。スマホと同じような形態で

できます。だから以前の衛藤教育委員のパソコンが入った時の状態より非常に使いやすく、進化しています。パソコンの場合はアプリという発想は無かったです。でも、スマホからタブレットとなるとアプリでどう動かしたら良いのかというのは、誰でもできるような形だと思います。ある意味ではスマホができる人は、タブレットはできるのではないかなと思います。そして特命アドバイザーの方が対応してくださっているの、分からないところは聞いて操作方法等きちんと対応してくださるので、そういった意味では非常に良いと思います。

衛藤教育委員

問題は機械が得意な人は簡単になじめると思います。しかし、機械に抵抗感がある人はなじむのに時間がかかると思います。そしてパソコンと同じですよと言われても、大きさも違う、出てくるアプリも違う。そのことが1つの抵抗になるから、そういう人も現実いると思います。だからできる人の目線で見るとはなくて、できない人の目線でどう見ていくかということが、私は教職員が使いこなせるための、1つのどこに視線を置くかという意味では非常に大事なことではないかと思います。現に当時は私自身ができなかつたのですが、本当は簡単でした。その時の若い教師が「校長先生、パソコンは簡単なのですぐに覚えられるよ。」と言われるけど、だめでした。そういう人もいるのだらうと思います。その人たちが子供達に指導するわけですから、その底上げをしないといけないということが私の過去の経験から感じていることです。

福田市長

色々と皆様のICTに対する屈託のないご意見ありがとうございます。私もそうですが、日本はもう古い人間の時代ではなくなって、アナログの人間からいうと、ハイテクというか、デジタルのことというのは目まぐるしいスピードで変わってきています。この変化についていかなければいけないのですが、我々より今の子供達がその中に生まれて、育っていくわけですから、生まれたときからこのデジタル化になっているわけです。それを指導する側が分かっていないといけない。その中で中間市というのは全国の中でも財政難で、お金がない中でソフトバンクさん、CSRのチームと組んでいただきまして、特命アドバイザーというものをつけてもらいまして、最先端の技術を教えてもらっています。これを先生方はチャンスだと思ってやるのが大事だと思っています。それに対してついていけない先生は生徒と同じです。さき程あったように得意な分野を先生も伸ばしていけば良いのであって、日本の教育で一番悪いのは画一化しようとして、すぐ横並びにしようとするのが良くないと思います。これからの世界とい

うのは伸びてくる人間をおもいきり伸ばそうという世界になるはずで
す。そのためには時間とお金がかかります。昔と違って、それをデジタル
化によってお金と時間が非常に短くすむという世界だと思っています。で
すから5Gと言ってずいぶん経っていますが、もう今は6Gらしいです。
これに対応する子供達がこれから日本の経済等を支えていくわけですか
ら、中間市においても少なからずついていって、これからの教育を引っ張
っていけるような、「青は藍より出でて藍より青し」というような意味の、
先生を追い抜いてパソコンをいじり、ICTについて立派な子供達が生ま
れることを願っております。

まとめになりますが、今日皆さんがおっしゃってくれたことは、本当に大
事なことで全部正解です。しかしながら、変化についていけないではもう
遅いのです。その変化に対応すべくみんなで知恵を出しあって、汗をかい
て、子供達の未来のためにやってみましょう。私から以上です。

それでは、続いては学校における新型コロナウイルス感染症対策について
の説明でございます。お願いします。

松永学校教育
課長

それでは、これまでの経過と取組につきましてご説明いたします。昨年2
月27日に、全国一斉に小中学校の臨時休業の要請がなされました。本市
におきましては、3月2日から3月24日、春休みの前日まで小中学校を
一斉に臨時休業といたしました。さらに、福岡県では4月7日に緊急事態
宣言が発出され、本市では4月7日から5月15日まで再び臨時休業を行
いました。そのため、4月9日に予定しておりました中学校入学式、4月
10日の小学校入学式が延期となりました。その間、子ども達の学習を保
障することや、学校生活のリズムを取り戻すことを考え、5月13日から
自主登校を実施し、5月18日からは、分散登校を実施いたしました。
はじめて小学校に入学する新1年生や、中学校に進学する新中学1年生、
その保護者にとりまして、人生の節目となる最も大切な入学式は、5月9
日の午前中に小学校、午後に中学校で執り行われました。子ども達同士の
感染予防のための分散登校は、5月21日に終わり、5月22日には通常
登校が開始され、子ども達に笑顔が取り戻されることとなりました。学校
再開後の感染予防の取組といたしましては、アルコール消毒や手洗い、身
体的距離を保つなどの感染予防を徹底し、消毒サポーターや学習サポー
ターを各学校に配置するなど、人的補助を行いながら、子ども達の学習環
境を整えてまいりました。

この感染症につきましては、当初、不明なことが多く、全ての年代で同じ
ような感染症対策が取られてきましたが、最近になりまして、統計的に小

中学生に対して影響が少ないことが少しずつ判明していることから、直近の文部科学省からの通知では、一律に学校全体の臨時休校を求めるのではなく、地域の感染状況に応じた感染防止策の徹底を図るように、と変遷してきております。

続きまして、学校での具体的な対策について、学校指導課よりご説明いたします。

小野学校指導
課長

学校における新型コロナウイルス感染症対策については、文部科学省から出されている『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.12.3 Ver.5)』を参考にして実施しています。

各学校での対策を紹介しますと、まず、換気につきましては、教室では常時、対角線になる窓を開けて換気を行っています。休み時間は校内放送で換気のために窓を開けるよう呼びかけることも行っています。

湿度管理につきましては、学級数等の違いから学校によって差がありますが、加湿器を購入して活用している学校やタオルを湿らせてハンガー等にかけて湿度調整を行っている学校もあります。

検温については、家庭で朝の健康観察カードを記入して登校し、学校に着いた時に提出します。カードを教員がチェックし、検温できていない児童生徒がいたときは、保健室で検温するようにしています。熱が高かったり、体調不良がうかがえたりする場合は、保護者に連絡して対応してもらっています。

マスクを外す時間が一番長くなる給食の時間は、児童生徒は全員同じ方向を向いて食事をとっています。寄贈いただいた段ボールシールドがまだ使用できる学校は問題ありませんが、破損してしまった学校は、児童生徒と先生が対面にならないように先生の前にシールドを置いたり、先生が一番後ろに座ったりしながら、児童生徒の様子を見ながら、給食の時間を過ごしています。以上です。

福田市長

ありがとうございました。それではただいまの説明に対するご意見がございましたらお願いいたします。それでは衛藤教育委員さん。

衛藤教育委員

実はコロナウイルスというのは誰もが経験していない未知の形のものですが、教育委員会はきちんと対応されていたので、1人もコロナにかかる子供が出なかったというのは成果だと思います。ただこれから先、一番心配しているのは変異ウイルスです。もうすでに日本全国にウイルスが入っ

てきていて、これがいずれ福岡県にも飛び火してくるのだらうと思います。それが入ってきたときに子供達にどうするのかという対策です。もう一度改めて新学期にコロナに関する子供達の気持ちを引き締めるための指導と、そのための話が必要ではないかと感じています。

福田市長

今の件について、小野課長。

小野学校指導
課長

感染症については、各学校で指導しておりますので、当然新年度になりましても、そういった指導をして参りたいと考えております。

片平教育長

例えば、下校時に1人で帰るときや距離が保たれる時はマスクを外した方が、熱中症にかかるよりは良いという指導をされていたということは聞いていますし、時期によって様々な指導の仕方が変わっているのではないかと思います。

高橋学校指導
課長補佐

学校指導課の高橋です。学校の中では教科によって、体育の場合には屋外で十分距離が取れるときには外して良いとしています。放課後も十分距離が取れていたり、1人になったりという時にはマスクを外して下校していると思います。

片平教育長

学校の先生達も子供達にコロナに対する教育を随分しています。子供達の気が緩んできているのかと言うと、私はそうではないと思っています。先生達は本当に良くコロナに対して指導をされていますし、危機意識を持って対応されています。

福田市長

今一度、緩むとか緩まないとか以前に、マスクを着用することをもう一度必然であるよということを言ってくださいということで、これだから良いとか、これだからダメだよとかではなくて、今一度終息に向かうために徹底してやりましょう。何mだからOKとかではなくて、指導をして下さいと言っているわけですね。

それでは、河本教育委員さん。

河本教育委員

先ほどからお話を伺っていると、随分コロナに関する教育を先生方がなされているということで安心していきます。私自身を顧みますと、最初にコロナが出たときは、喘息のリスクを持っているので非常に怖かったです。そして芸能人も亡くなりましたし、本当に怖くて気を付けていました。けれ

ども、長引くことによって、どうしても気の緩みが出て、買い物に行くときにマスクを忘れて行ったりということがありました。若い芸能人の話で、コロナにかかって軽い状態だったけど、軽くても後々ずっとにおいがなかったり、ダンスの時、講演の時に普段のような力が出せなかったり、本当にこの病気は怖いということをおっしゃっていました。先生方もおっしゃっていると思いますが、改めて子供達に指導していくということが大事だと思っております。中間市で今の状況で出ていないというのは、本当に素晴らしいことだと思います。この状況が続くことを願っておりますので、よろしくお願いいたします。

福田市長 ありがとうございます。では、佐野教育委員さん。

佐野教育委員 今のところ児童生徒でコロナにかかった子がいないというのが、奇跡的に喜ばしいことであります。その中で1つ心配なことは、もし1人でも出たら犯人捜しのようなことになって、その子がいじめにあったりということがなければ良いと危惧しております。後はコロナ対策のマニュアルがあるので、せつかくICT教育で全児童生徒にタブレット配布となりますから、もしまたひどくなった場合には、遠隔で授業ができるような体制もマニュアルで作っておいていただけたら良いと考えております。以上です。

福田市長 ありがとうございます。それでは太田教育委員さん。

太田教育委員 今佐野教育委員がおっしゃったように、私が心配しているのは、今後もないとは言いきれないと思います。常日ごろから誰もがかかる可能性があるということ、そして、かかった時にもいたわり合っていけるような学級の雰囲気を作っていただけると良いと思っております。
それと子供達の心のケアです。これは今先生との触れ合いや仲間との触れ合いが十分できない状況にありますので、そういったところのケアを、触れ合うことではなくて、何か文章であったり文字媒体であったり、何かしらでお互いケアしていけるような対策を講じていただけると良いのではないかと考えております。本当に現場の先生方、中間市の学校教育の対策には頭がただ下がる思いで、まず学習時間が確保できたということです。授業の開始が遅れた中でも対策をされたというのは、本当に素晴らしいことだと思います。大変な作業だったのではないかと考えております。引き続き指導していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

福田市長

す。

ありがとうございます。

今各委員から屈託のないご意見をいただきまして、もう一度気を引き締めて、だんだん物事というのは慣れてくるので、もう一度再確認のために、自分のために、人のために、大事な家族のためにということでご指導をお願いいたします。

万が一、今ゼロ更新していますが、出たときに人間の一番悪い部分がでないような教育もしていただきたいし、中間市というのはどんな差別も許さないという街にしておりますので、思いやりの心をもって、優しい心持ちになるように、だからこそ、今回コロナというのは良い境遇かなと思ったりもしています。それも含めて指導をよろしくお願いいたします。

他にはないようなので、その他に進みます。その他何かお気づきになったことなどございますか。

ないようですので、それでは、みなさん今日はありがとうございました。中間市は今3月議会、令和3年度の予算の議会の真ただ中です。みなさんに理解をしていただきたいのは、令和3年度の予算がたてられたということです。ここに至る道のりはすごく激しかったし、本当に壁がありました。しかしながら各職員、そして皆さんの協力を得て、たてることができました。これはどういうことかと言いますと、我々住んでいる人間もそうなのですが、子供達に未来の中間市を保証したようなものです。様々な方々から「各市町は教育費にいくら使っている。中間市は最低だ。他の市町は鉛筆買えるのに、中間市はボールの1個も買えないではないか。」、とんでもないです。今最初にICTも言ったように、今回のコロナ対策に対しても他の市町以上のことをやっております。それが何に繋がるかというと、子供達のシビックプライドに繋がります。最初のICTによってJR中間駅、この無人の駅に駅長をつくって、中間の歌をメロディーで流して、こういうことをやっているところ他にありますか。ありません。そして、プログラミングをしたのは子供達です。子供達が中間市の文化、歴史、グルメ等々学んだものをプログラミングできて、そして自分の駅をデコレーションできるという、こういう街はおそらくないと思います。何か次を待っているとしたら、ICTを活用してオンラインというのを使って、全国の無人駅の子供達の集いを作ってあげた後には、本当に旅をする。これこそが本当のGo Toトラベルではないかということ、中間市の子供達がやっていくという未来をつくっていきたいし、そして今言われたコロナ対策に対しても、子供達は意識が高く、感染者ゼロと。そういう喜びのも

と子供達の明日をつくっていかうではないかということで進んでいきますので、どうぞ教育委員の皆様には、色々こちらから注文することがあると思いますけれどもご協力お願いいたします。教育長とともに学校の教育、これが日本の明日だと思っております。だれがつくるか、中間市の子供がつくったというプライドをつくりましょう。中間市からすごい人を生みましょう。ZOZOの前澤さんが寄付してくれています。ZOZOの前澤さんではない、中間市のだれだれさんが40億円ばらまいたくらい、そういう街になったら良いと思っておりますので、どうぞご協力下さい。私からは以上です。最後に教育長お願いします。

片平教育長

本日はありがとうございました。

中間市のICT教育について、そして学校における新型コロナウイルス感染症対策について色々なご意見が出され、市長のお考えも聞くことができ、本当にありがとうございました。今市長が言われましたようにICT教育につきましては、先進的な取り組みを中間市は行っています。それはなぜかという、今から先の世の中を、時代を生き抜くためには、このICT教育が非常に大切だという先見の明を福田市長が持たれて、「どんどんICT教育を進めてください」ということを随分支援してくださっております。特命アドバイザー又はロボット、それからソフトバンク、様々な企業等についても声をかけてくださって、中間の教育を支援してくれるということで、していただいております。そのおかげで随分先進的な授業又は子供達の学びを深めることができているのではなかろうかと思ひますし、コロナウイルス対策の中で子供達が今この先どんな世の中になっていくか分からない、先の見通しのつかない世の中になっていく、そういった中で、知恵を絞って協力することでそれが乗り越えられるのだということ、今学んでいるのではなかろうかと思ひます。そういった学びを深める支援を中間市からもしていただいていることは、本当に教職員は感謝しているところでございますし、教職員はソフト面でしっかりサポートして、そして市としてはハード面をしっかり固める、そうすることが、これから先子供達がどんどん世の中に高く羽ばたいていける中間市の子供達に育っていくのではないかと思っております。中間市と教育委員会と力を合わせながら、学校教育又は社会教育等盛り立てていきたいと思っております。

今日は貴重なご意見ありがとうございました。

佐伯教育部長

福田市長、片平教育長ありがとうございました。

それではこれもちまして、令和2年度中間市総合教育会議を閉会いたします。
本日はみなさんありがとうございました。

[閉会時刻：15時00分]